

第77号

発行所

京都市左京区七王門通新高倉東入

京都カトリック教理センター

広報室(Tel761-9095)

編集責任者 村上透磨

編集部 教理センター

田中司教認可

京都教区時報

小教区の頁—久居教会



「教区ビジョンの実践にあたって」

どんな計画も、それをつくることより、実践することの方がむずかしいものです。

教区ビジョンも同様で、これからの数年が特に大事な時期だと思います。

それぞれの地域で、またグループで、ビジョンの具体的な取り組みを、すでに始めておられることでしょう。

そこで、私なりに大事だと思われることを言わせていただくならば、

● 私たちキリスト者が、「社会とともに歩む」と言う時、社会の仕組みを特によく見きわめる必要があるように思われます。現代の日本社会では、人間よりも物が重要視されており、人間の値打ちも学力、財力、地位などで計られています。また消費主義の影響によって、自然は破壊され、資源の無駄使いが平気で行われています。こうした社会は、神によって創られ、あがなわれた人間の尊厳を高めるところか、損っているところかと言えないと思います。例えば、隣人を愛さなければと言いがら、ただ便利だから、家族が多いからということまで合成洗剤を使い、子孫に美しい水を残すことを考えないことは矛盾していると言えないでしょう。また数年たてば壊れるものしか作らず、物さえも大事にされない時代に私たちは生きています。更に景気を回復させるために、どこかの国で戦争をしてくれなとか、軍備が必要だとかいった殺人の声が高まっています。

司祭評議会議長 西野猛生

● 私たちが社会とともに歩むと言うならば、個人的な悪を避けるだけではなく、社会的な悪に対して斗っていくことが求められていると思います。言い換えれば、社会の流れにサオ(竿)をさすということです。洗礼によって神のものになったということは、私たちの生き方・姿勢が神から問われているということです。生まれかわるということとは、社会の中であって、さからの印となることでもあるのではないのでしょうか。

● 私たちのまわりに既にある、いろいろな動きをもっとよく見つめてみましょう。そして「現代世界憲章」やシノドス文書「世界の正義・福音宣教」ヨハネ・パウロ二世の「平和メッセージ」などを学びながら、福音書の中のイエズスの姿を探していきましょう。現代社会におけるキリスト者の生きざまも社会の中に示していきましょう。

● しかし私たちができることは、小さなことかも知れませんが、どんな小さなことでも、それを見直し、更に深めることが大切だと思います。また一人ですること、互いに手をつなげることができることがたくさんあります。

● 日常生活の中で身近な人々と一緒に人間の尊厳を高め合う努力がなされた時、教区ビジョンも生かされていくでしょう。そして教会が社会の中にあって、地の塩、世の光となっていくことでしょう。

教区短信



- ▽ 1月18日(土) 25日 間 キリスト教一致祈禱週間
- ▽ 2月7日(日) ① 日本26聖人殉教者記念ミサ(小寺ビル)
- ▽ 2月10日(水) 京都国際宗教同志会(河原町)
- ▽ 2月11日(木) 教区修道女連盟の集い
- ▽ 2月15日(月) 邦人司祭月例会
- ▽ 2月22日(日) ベルナデッタ祭(聖母女学院)
- ▽ 2月23日(火) 松田友明師理骨式(衣笠)
- ▽ 2月24日(水) ノートルダム高校・聖母高校卒業式 灰の水曜日
- ▽ 2月27日(土) セントヨゼフ高校卒業式
- ▽ 3月1日(日) ① 司祭評定例会
- ▽ 3月5日(金) 富津晩星高校卒業式
- ▽ 3月7日(日) ② 教区時報拡大編集会議
- ▽ 3月9日(火) 長岡幼稚園司教座参り
- ▽ 3月11日(木) ノートルダム大学卒業式
- ▽ 3月15日(日) ③ 聖母女子短大卒業式
- ▽ ノートルダム小学卒業式
- ▽ WCRP研修会(知恩院)
- ▽ L.M.Aチエス
- ▽ 3月21日(日) ④ 聖母の家学園卒業式
- ▽ 3月22日(月) 理事会
- ▽ 3月23日(火) ⑤ 教区幼稚園連盟研修会(河原町)

去る11月29日、修女連の集いが信愛幼稚園で行われ、修女連顧問、田中司教を始め80名余のシスターが参加した。

開会の祈りの後、午前中は身体的障害者ののりこえて神の平和と喜びに生きたる子羊会会長伊達よしえさんの信仰体験談に参加者は深い感銘を受けた。同時に国際障害者年が一時的な行事、スローガンに終ることなくまた身障者と健常者がこの差別社会、能率本位の社会の中で、キリストの内に一つになり、米国の実現に相互協力して歩む道を考え祈る機会となった。

シスター・ジー・エフ

まなびあう集い

貧しい人々の自立と、貧困と無知の中にいる子どもたちへの具体的な援助活動を通じているシスターの生き方に、アジアへの関心をひろげ、貧しい兄弟姉妹への助けの手を伸すことが参加者の一人一人に問われていると痛感した。



まなびあう集い
ートルダム修道会ー
からは、すでに800名
余りの協力者を得て
活動している、イン
ド友愛の手。につい
て現状報告を聞いた
インドの五つの島の

午後は各修道会相互の理解を深めるために昨年から続けられている四つの修道会の紹介があった。

各修道会の創立精神、使命などがスライド等により説明され、それぞれの修道会に与えられた神の恵みとみ業を思い、田中司教司式のミサの中に感謝をこめ会を閉じた（「Sfメリーキベサリン皆臨」）。

司祭・修道士 神学生懇親会

一月四日

恒例になった、一月最初の月曜日に開かれる懇親会が、今年も1月4日、12時より、河原町司教座聖堂において、約70名の司祭の共同司式ミサにより行われた。今年は大変な年になりそうだと云う予感、は、ビジョン発表後、その具体化へ動く第一日目としての自覚にもあったろうが、松田師の死去、及びウイセンシオ会々長として又ビジョン作成の準備委員の一人として尽されたフランシスコ山口康大氏の死と相次ぐ悲報に接したからであろうか。ミサ中司教はそれらに触れた後、昨年を思いおこし、51年度は恵みの年であったことを想起された。教皇訪日、マザーテレサ、ワレサ議長の来日、更に教区ビジョン発表にこぎつけるにいたったこと、そして新しい具体化へ、教区は注目されて、そして新しいことを指摘された。司教個人としても、諸宗教との対話、アジア司教会議の出席等を通じて恵みに満ちた年であった。これらの出来事は一見何等関係のない出来事と思われるかも知れないが、



善意の人に

平和

♪ クリスマスの一夜、チャリティコンサートにと、アイリッシュハーブの数々が衣笠教会で昨年12月22日に演奏された。女性8名のアマタハーブアンサンブルが創り出した美しい一時は、140名余の参加者に味あわれただけでなく、その収益金の一部は現在準備進行中の「京都いのちの電話」へ寄付された。祭壇の後に、アイコン式に画かれたキリスト自身がハーブの音色に耳を傾けながら、カトリックプロテスタント、未信者と様々の参加者を見守つておられるように見えた。神に榮光、地には善意の人に平和あれ。



三愛事務機株式会社 社員急募

☆社員募集要項

年齢 男子19歳～25歳迄
職種 技術社員 5名(技術者得は人社後司
学歴 高校卒業程度以上
待遇 面談の上、賞与年2回
条件 1) 司祭又は牧師の推薦状により
クリスチャンであること
2) 履歴書、写真

ご希望の方は、郵便又は電話で本社
総務部にご連絡下さい

U-Bix T

- ② 指定紙を使わなくてよい
- ③ ハガキのクビレとどきる



主要業種 ● 小西六 U-Bix

ゲストナー輪転機

トライアンフ・タイプライター

●販売機器のアフターサービス
及びオーバーホール

当社は社長以下大多数がクリスチャンである
特色ある堅実な会社です。
教会及び教会関係の施設には特別のご奉仕を
いたしております。

本 社	〒542	大阪市南区堀江通3丁目133 新谷ビル
神戸支店	〒650	神戸市中央区海岸通3丁目2-19
サービス工場	〒558	大阪市住吉区長居1丁目15-14

☎:06-252-7818 (代): 7817-9
☎:078-391-2537
☎:06-692-6106

お知らせ

古屋司教様。一時面会も少しずつ解除されておりましたが、やはり心臓の方に無理がかりますので当分の間、面会謝絶とし、一日も早く無事退院なさいます様お祈りいたしたいと思います。

人事移動

帰国

キャンベル師(レデンブートル前管区長)

永らく京都北部の司牧宣教にあたられ、たがその任を終えカナダに帰国。

バレル師(レデンブートル)は病氣療養のため一時帰国、お祈り下さい。

Sr.ドリー(ノートルダム)30年間学校教育を通じて尽されましたが、病氣療養のため帰国、お祈り下さい。

転任

松本秀友師(西院)四月より、東京大神学校養成担当司祭として転任。

メリノール

津教会助任チャールズ・ボラス師

草津教会助任ジョン・マッコーリー師
西院教会主任代行トマス・オカーナ師

主任は村上(真)

亀岡教会

松田師の死去にともない、当

分花井師(桂教会)が兼任。

レデンブートル

西・中舞鶴

クレメンシス近藤雅広師(YBU)

ジャン・ラソンド(富士見)
Br.ミン・イクナス(岡谷)

特別聖体奉仕者

(昭和56年3月より)

特別聖体奉仕者は、叙階への段階の聖体奉仕者とは異り、一般信徒でありながら、聖体奉仕の役職を果すもので、主な務めは、

一、司祭不在の際、みこはの祭儀を司会(説教も含め)し、聖体を授与する事。
二、病人等に聖体を持参すること、教区

としては、カテキスタ及び、使徒職養成コースを終えた信徒で、主任司祭より申請のあった者に期限つきで司教より任命するものである。申請は一応書面によるものであるが、口答のものもあり、以下あげた方の外にも任命されている方がるように思われる。

(敬称略)

一月四日 悲しみと祝いと

この小さきものにした事は、

この日は、祝いと悲しみが重なった日であった。日

朝10時 フランシスコサレジオ山口康大氏、密葬、氏は京都ウイセンシオ会の会長、又全国理事として永く貧しい人々の友として尽くされ、教区ビジョン作成のため準備委員として努力。又河原町教会委員として活躍されたが、一日夕刻心不全のため帰天。享年 54才

(尚本葬は10日午後2時より河原町教会で行われた)

正午より 司祭修道士神学生懇親会。4時、故トマス・モア青木英五郎氏年忌ミ

ノートルダム大学修道院長
聖ヨゼフ整肢園 Sr.ホスチア

網野 池内龍孝

大宮 藤村嘉孝

峰山 尾崎年夫 広野和子

津 Br.ゴードン 齊藤一男

津南 稲地聖一

尾鷲 川口徳太郎

久居 富永正行

草津 牧英雄 三俣俊一 金谷誠一

井上茂夫 山川渉 大原康園

久田誠一

園部ドミニコ Sr.得能

C.ノートルダム修道院長(登美ヶ丘)

大和八木カノッサ Sr.肥塚

伏見 松尾昭三

サ。氏は教区顧問弁護士として教会の法律関係のよき忠告者であったが、同和問題ではその弁護士としての職業を生きし、その弁護に大変な努力をなされた方であった。

夕7時30分 松田友明師、お通夜

師もまた羊会会のよき指導者として、尽され、師の死をいたむ羊会員の姿が印象的であった。

この様に之等の方々はいずれも、それぞれの場で、弱い立場にある人々のために生きた人々であり、教区ビジョンを率先して生きたのである。

主は小さき者にしてくれた事は私にしてくれたのだと、感謝と祝福の言葉を述べておられる事だろう。

永遠のやすらぎを

松田友明師(亀岡教会主任)

1月2日心不全のため

亀岡病院にて死去57才

1月5日葬儀ミサ

於、河原町教会



師は大正13年、丸亀市に生れ、京都地球物理学科に学び、防災研究員となり、昭和49年河原町で受洗、50年大神学校に入学、翌51年ローマ留学、58年司祭叙階、61年帰国後、山科、伏見、高野の助任を経て、高野、西院、亀岡教会主任。

聖母、ノートルダムで教授。学連、羊会の指導司祭でもあった。

第三回 拡大編集会議のお知らせ

教区時報も復刊してから5年近くが立ちました。何とか隔月発行を守ってこれたのも、皆様のご協力があればこそと感謝しています。

昨年ビジョンが発表され、その実践に時報の果たす役割も益々大きくなることでしよう。そのために、各小教区と密接なつながりをもった時報でなければと考えます。拡大編集会議を左記のように開きますので、担当者の方はぜひご出席下さい。

日時 3月7日(日) 午後1時~4時
場所 京都カトリック会館 6F
内容 司教司式によるミサ
会議 ビジョン実践に時報が果たす役割、等。

司教の足どり

十一月〜一月



(古) 古屋司教を見舞う

11月

1日⑧諸聖人のミサ(司教座)。衣笠

共同募参。女子カルメル会訪問。
S教会役員と面談。

3日 文化の日。ウォーカーソン。(古)

4日 マリスト管区長来訪。ブルガナ

ン司教(比島)来訪。

5日 京の名刹寺院を案内(フ司教)。

6日 ブルガナン司教講演会(河原町)。

7日 (古)。教区創立記念準備実行

委員会。

8日⑧(古)。母と老司教を見舞う

(聖マルチン病院)。

9日 (古屋司教に専属の付添いをつ

ける)。

10日 (古)。(古屋司教酸素吸入器か

ら解放)。

13日 (古)。

15日⑧新田辺教会堅信、七五三ミサ。

精華ハイム増改築部分祝別式。

第二回全国司祭カリスマ刷新熱

想会に挨拶(鳥羽)。

16日 邦人司祭月例会。

17、20日 司祭生涯養成コースの終番

に参加(鎌倉)。鶴岡八幡宮。

円覚寺表敬訪問。横浜小神学校

訪問。

22日⑧桂教会堅信、初聖体ミサ。(山

国教会25周年、VG)。

23日 京都教区創立記念ミサ、教区ヒ

ジョン発表(洛星高校講堂)。

24日 (古)。

25日 上京、駐日バチカン大使館訪問

26日 宣教司牧司教委、JMP C理事

会。(駐韓バチカン大使来洛、

VG接待)。

27日 西本師と面談。東京神学院司教

常任委。帰洛。

28日 加藤夫妻来訪(青松園)。(古)

29日⑧教区修女連の集い(信愛)。

30日 五条署交通課訪問。国際宗教同

志会。

12月

1日 上京、シャルトルの聖パウロ会

本部訪問。汚れなきマリア修道

女会管区長と面談。JCRR会

議(明治神宮)。

2日

帰洛。

3日 N教会信徒役員来訪。西村師(大

阪)来訪。

4日 近藤師と面談。早副師と面談。

(古)。

6日⑧司教座ミサ。

7日 長崎行。司教協機構検討案。

8、12日 司教協総会。帰洛。(古屋

司教の専属付添解任)。

13日⑧(古)。

15日 聖母訪問会代表と面談。ムジカ

・フェリーチェに挨拶(京都会

館)。

16日 (古屋司教への面会を制限付き

で許可)。

17日 (古)。平間師二周忌募参。

18日 教区時報編集部員の集い。

19日 園部教会訪問。

20日⑧聖家族幼ミサとクリスマス会(園

部)。

21日 教理センターXマスの集い。

22日 ヌベール会管区長来訪。

23日 司祭有志の会。司祭評常任委、

国際宗教同志会。

24、25日(古)。クリスマス市民ミサ

司教座。クリスマス真夜壮厳ミ

サ。

26日 SSND大学長来訪。信愛幼終

業ミサ。古屋司教再び面会謝絶。

28日 邦人司祭月例会。神学生養成担

当者会。(古)。

31日 松田師吐血。亀岡病院入院。村

上真、齊木兩師急行。

'82 1月

1日 正月元旦ミサ。松田師見舞う。

(SVP山口氏急死)。松田師

病状悪化。邦人司祭団に電話連

絡。

2日 松田師早朝急死。(花井師臨終

に教会の祈りを共に祈る)。

松田師遺族の到着を待つて納棺

の儀(亀岡)。

3日⑧司教座ミサ。

4日 教区内司祭修道者新年ミサと集

い。教区顧問弁護士故青木英五

郎氏一周忌追悼ミサ。松田師通

夜。(すべて司教座)。

お知らせ

57年度信徒徒職養成コース予定

●第12回

日時 3月19日(土)〜22日(月)

場所 京都洛星高校宗教研究所

コース 基礎コース

●第13回

日時 4月29日(木)〜5月1日(土)

場所 京都洛星高校宗教研究所

コース みことばと典礼I

●第14回

日時 5月2日(日)〜5日(水)

場所 名古屋教区センター

コース 基礎コース

5日 松田師遺族を衣笠墓地に案内。

松田友明師葬儀ミサ。火葬場。

6日 松田師遺族と特別ミサ(司教チ

ヤベル)。京都ロイヤル副社長、

総務部長来訪。(古)。

8日 (古)。

9、10日 上京、東京神学院哲学科静

修。帰洛。

11日 衣笠墓地視察。KCC(桂)。

11日 NCK(河原町)。

12日 園部教会。塾。こひつじの苑。

聖家族訪問。松田師10日追悼

ミサ(亀岡)。

13日 小さきイエズスの友愛会総長来

訪。

15日 SSNDの集い(大学)。

感謝の典礼(上)

共同祈願でみことばの典礼が終わると感謝の典礼に入ります。みことばを通して告げ知らされた神の救いのみわざが、キリストの制定された新しい過ぎ越しのいけにえと会食の中で再現化されるのです。少し順を追ってその構成を考えて見ましょう。

一、供えものの準備

みことばの典礼の中心は朗読台でしたが、ここから中心はキリストのからだの食卓——祭壇に移ります。そのための祭壇の準備と、パンとぶどう酒の準備が行なわれます。初代教会の頃、ここで信者たちが自分の日々の労働、その喜びと苦しみ、すべてを神に捧げるために、奉納行列をつくって、それぞれの実りを捧げました。司祭はそれを受けとって、その中からミサに使うパンとぶどう酒をとり分けました。現在ではその意味を少しでも表すために、教会によっては信者が、ホスチアとぶどう酒を奉納します。また献金がこの時に集められるのもそのためです。司祭が後で手を洗うのも、その時代に行われる農作物などを受け取った名残です。司祭は全会衆を代表してこの供え物を祭壇に供えます。

二、奉獻の祈り(讃美と感謝)

「主はみなさんとともに」という呼びかけとともに、感謝の典礼の中心部である感謝の祈りがはじまります。叙唱と呼ばれる感謝の祈りからはじまって、「キリストによって、キリストとともに……、アーメン」という賛歌で結ばれる奉獻文まで、一つの貫いた賛美と感謝の祈りで、その中で主の最後の晩餐の記念が行なわれます。この感謝の祈り全体がパンをキリストのからだに聖別するのです。

この感謝の祈りは、座長である司式司祭が全員を代表して祈りますが、会衆も感謝の賛歌や応唱(主の死を想い……やアーメンなど)でこの祈りに参加し会衆全体の祈りであることを表わします。ですから司式司祭の祈りに心を合わせるとともに応えの言葉には全員がはつきりと力強く参加する必要があります。初代教会では、この感謝の祈りは時に応じ司式司祭が自由につくって祈ったものでしたが、6世紀ごろからしだいに固定化してしまいました。そのために失われた豊かさを補うために、第二バチカン公会議後、新たに三通りの奉獻文が加えられ、現在、季節や祝日などに応じて62通りの叙唱と四通りの奉獻文があります。

この感謝の祈りは共同体全体がキリストを通して主にささげる祈りであり、祈りにおいてキリストと一つになり、キリストがささげられた奉獻に一致します。

感謝の祈りの主な構成は、

- イ 感謝。特に叙唱の中で神の救いのみ業について賛美と感謝が表わされる。応え。全会衆がこの賛美と感謝に加わる。感謝の賛歌、死と復活の記念の応唱、結びのアーメンなど。なるべく歌われることが望ましい。
- ロ 聖霊の働きを求める祈り。
- ハ 聖体制定のキリストのことは。キリストの命令を思い起こし、最後の晩餐に制定されたキリストご自身のからだと血のいけにえを再現する。
- ホ 記念。キリストの受難、復活、昇天を記念し、そのキリストと救いの恵みが今もここに生きつづけていることを思い起こす。
- ヘ 奉獻。唯一の真のいけにえであるキリストの奉獻に心を合わせ、教会は自分自身のすべてを汚れないささげものとして奉獻する(キリストのいけにえに参加することこそ真の奉獻なので、その前では奉獻とは言いません。供え物の準備のところで、奉獻・奉納という言葉を使わなくなつたのもその意味です)。
- ト 取り次ぎの祈り。全教会の祈りであるミサには地上の教会とともに、天上の教会(諸聖人たち)も加わっています。天上、地上の教会を思い起こしてこれを表わします。
- チ 結びの栄光。神の栄光への賛美で祈りを結び、全会衆は感謝の祈り全体をアーメンと応えて結びます。アーメンとは「そうです、賛成」という意味です。(続く) 松本三朗

製菓材料・舶来食品
和洋酒・修道院製クッキー
ミサ用ブドー酒

タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通鳥丸東入
電話 (221) 0976-7

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀・貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下 安雄

京都市右京区西院寿町23
電話 (075) 312-7829
(075) 771-7577

ありがとうみなさま
ウォーカーソン募金総額327万
アジアの飢える兄弟へ
11月3日行われたウォーカーソンの募金額は、実に総額、327万657円に達しました。みなさまの寛大な御協力に感謝するとともに来年もまたよろしくお願い申し上げます。尚、この募金は全額、ケニアの飢える兄弟達のために、毎日新聞社を通じて送ります。ありがとうございました。(時報編集部)

「56年も後数日になりましたがこの一年の努力が自分自身足りなかったと反省し、来年こそはと思うのです」とは伊勢神宮の神主の年末挨拶。そう云うようなところで働いておられる所が所です。お正月の意味をよくつかんでおられるのではないかと思います。

忘年会、そして新年会、一年間のものとも厳粛な祭日の前後にこう云う祝いがあられるにも深い意味があるのではないのでしょうか。暦の節、あるいは人生の区切りにはそうした反省そして決意のきつかけとなるようなものが必要でしょう。

ただし本当に決意を立てる人はそんなに多いかしら。立てても相変わらずの自分です。しょうがないと云うような態度が普通ではないでしょうか。つまり運命だとあきらめる方が圧倒的に多いでしょう。誰しも結婚式の日を決める時仏滅を避けて大安を選びます。いくらカトリック信者でも第一次総入学試験の整理番号に「4」があれば不安を感じてしまう。



暦の節と

決意

運命論は無責任をもちます。確かに「仕方ない、運命だ」と言えば自分を咎めている良心が緩和され罪悪感がとれるから気が楽になるでしょう。

しかしイエズスの復活を信じている者は決してそんな生ぬるい態度であってはなりません。自分が弱くても立ち上る希望があります。イエズスと共に死ねばイエズスと共に生れ変わります。

(ジャクソン師)

三重県のはま中心に位置する久居市は、古くて小さな城下町です。人口は三万人をやつと越えたばかりで「市」を名のるのもおこがましいのですが、自衛隊とベッドタウンとしての団地造りに支えられて、なんとか面目を保っています。保守的で穏やかな土地柄であります。

このような町に今の教会が建てられたのは昭和44年9月7日のことです。まだやつと13才を迎えたばかりの若い教会です。もともと久居に住

の信者は7kmほど離れた津の教会に通っていたのですが、メリノール会のボースレイ神父様によって、昭和41年から分離独立することになりました。最初の頃は、

町はすれにある小さな伝道集会所を利用し、気心のわかった数家族の信者が、ミサの後、二間続きの畳部屋で、持ち寄った弁当を、つき合いながら款談する家族的な教会でした。この時の家庭的な教会の雰囲気は、今なお久居教会の中に大切なものとして残されています。新聖堂を建てる時にも、落着いて款談できるよう間取りを考えました。

ミサを終え、聖堂から出た信者は、聖堂に隣接したホールか畳の部屋に入って、お茶を飲みながら共同の「交わり」を大切にします。

ボースレイ神父様を初代の主任司祭として、その後マンテカ神父様、フラスキ

小教区の頁

久居教会



主は久居と共に

「神父様、クレッチャ神父様、徳久神父様、そして現在第六代主任司祭として、ジャクソン（自ら邪苦損と名のられる）神父様に司牧されています。」

この内、特に大きな変革を受けたのは、第四代のクレッチャ神父様のときでした。今まで親に頼る子供よろしく甘えていた信者を、一本立ちのできる大人とするために無理やり立たせてくださったのです。教会の維持管理から典礼、布教活動に至

るまで、自主的に信者の手で運営できるよう教育し訓練していただきました。そのお陰で、昭和49年以後、久居教会が司祭の常駐しない教会として、信者の自主運営でどこまでやれるかを実験的に試みることができるようまで成長しました。司祭の少なくなる未来を予想しての試みであつたのです。

「信者の手でどこまでやれるか」を検討するために、今までの教会活動のすべ

てを列挙しました。日曜日から土曜日まで、教会の内外を問わず、司祭から伝導婦、一般信徒に至るまでの、教会としてやっていることを全部リストアップしました。その中で神父様でなければ絶対できないことを選び出しました。それは「として秘跡に関すること」で、案外に少なく、今まで信者がいかに自分達でできることを神父様にさせていたかを改めて認識させたのでした。それと同時に、カトリックの信仰にとって司祭の任務がどれほど大切なものであるか、よくわかりました。司祭の任務を除き、それ以外は信者の手で、これまで通りの教会活動が維持でき、それ以上に発展できるように、教会の組織が必要に迫られて出来上つてきました。詳しい説明は余裕がないのでできませんが、当時はふり返って思います。は、なんと皆が一致して燃えていたか不思議な気がいたします。神の恵みに感謝！次に久居教会の名物人物を紹介いたします。まずカテキスタの宇高泰代先生、小さな身体で教会の発足当時から今まで、気むづかしい信者によくぞ仕えて下さった「小さき聖子高」（ボースレイ神父様の言）。次は教会発足から今年まで14年間役員に選ばれ続け、彼女の頼みは誰も拒めない「斉藤なへ」さん。そして田中司教様をつかまえ「あなたはなあ」と言い得る老人「富永陽蔵」さん。彼は教会の太久保彦左衛門的存在でした。最後に徳久神父様の言葉を以てお別れします。「主は皆さんと共に」「又ヒサイ（久居）と共に」

(文責 富永正行)

藤堂隆

言　　子どもを業續主義がお
 　　おい、遊んでいると落ちこぼれ
 寝　　の仕組みになってしまった世間
 の　　に腹をたて、いるとは或る心理
 の　　學者の話　子どもは遊びながら
 の　　育っていくことを忘れた大人が
 も　　多すぎる。案の定そ

のしわよせが子どもにも親にもきて家庭内暴力、暴走族の続出といった現状。

おしこめるな

遊びに夢中になっている子どもをついぞ見かけぬと思ったとたん、待てよ、教会の中にもこれに似てるところがあるんじゃないか」とひらめいた。

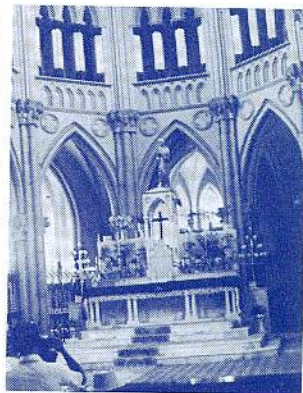
天のおん父から見れば私たちは「広場に坐っている子」とである。笛を吹いても

もご聖体拝領をし、教会一致の恵みを願いました。祭壇わきには、垂れ幕が下り鳴乎、無原罪之聖母……と読みとれました。時間の都合で祝福まで留めることは出来ず、次の予定地である天安門に向かわなければなりませんでしたが、聖堂前で一人の司祭に出会い、おぼつかないラテン語で京都からの司祭であることを伝えることが出来ました。その時、その司祭は萬感をこめて「オレムス、インピチエン」とラテン語でいいました。意味はお互いに祈りましょうです。

中国での旅行は、まだあまり自由行動はゆるされず、こちらの申請を中国の国際旅行社が調整して行先を決めてくれます。それで30日の日曜日、午前8時すぎに上海に着きましたが、信者でない団員

買った時に踊り、かなしみのうたを聞けば
 胸を打つ遊び(マテオ11:16)——生活自身
 —の中で生き—と反応してこそおん子
 キリストに似た者となってゆくのではない
 か? キリストは時に大食い、大酒飲みと
 悪口をたかれ(マテオ11:18)ながらも取

税人、ママリや被差別部落の女と語りあい、
癩病者シモンの家で食卓につかれた、たし
かにキリストは日々堂で教えられた。だ
が、またたしかに彼を知らぬ人々の間にさ
え交つて生活を共にされた。日曜ミサ、聖
堂の掃除、ロザリオ集会等などにキチンと



の方々のことも考えて、ミサへの参加を申請していなかったのです。主日のミサに参加出来ませんでした。ところが31日、塔乗直前に台風のため全便欠航になり、午後から自由行動が許可されて、上海の徐家江天主教堂に聖体訪問が出来るようになりました。有志十数名が三台のタクシーをチャーターしてまいりました。

出席勿論けつこう。しかし巷に叫ばれるキリストの声……核汚染物太平洋遺棄、戒厳令下の人權無視、自由社会にありながら孤独のうちに死んで行く人々等のうちにに應えてゆくことを怠つては、キリストを会堂に押しこめたまゝになる。子ども

が遊ぶことを止めたらそれはもう子どもとは言えない。キリスト者と呼ばれる者が巷に流れるキリストの声を耳ざとくキャッチできないければ、キリストに従うことはむづかしい。フィリピン教会の信徒も司教ものんびりしているように見えながら福音宣教に生き生きと活動する彼らの謎は、キリストと共にそれぞれの立場で生活しているからに違いない。

(Y)

門番の方に来意を告げ、司祭館に案内されました。司祭は青年に十字架を渡し、教理指導か、霊的指導をしておられました。司祭は青年に十字架を渡し、教理指導か、霊的指導をしておられたが、私達を聖堂に案内して下さいました。聞くとところによると、この司祭座聖堂も文革のときには荒らされたそうですが、五人の司祭が二ヶ月で、ステンド・グラスや塔を修復され、今では主日に二千人を越えるミサ参加者があるとのことでした。ご聖体のイエズスさまに、教会が、この国の人民に救いのしるしとして発展するようお願いしました。

中国の教会のために祈り下さい。

ハナム
ハウス
「E」より

涙のうちに肉親、故国をはなれて丸2年、ベトナム・ハウス御所のきょうだいは漸く笑いをとり戻したようだ。開設当時28人だったきょうだいは59人にもふえた。最初のグループの2〜3人を残し、殆んどが米国、オーストラリア、カナダに移住。去年のクリスマス頃には新しいカップルも生れ、13、14才児兄弟の里親を近所でさがしたり、日本永住希望者も出るなど地元の人たちのあたたかい心が少しづつ伝わっているようだ。

1月27日の午後、田中司教、奈良県知事、御所市長他60余名がV・ハウスに招かれ開設2周年を祝った。カーティ師所長の笑顔も明るかった。

昭和39年12月1日。私はこれが運命の別れ道とも知らず、病院の玄関に立った。軽い腹膜炎で一月もすれば退院して、夫や子供のまっ家庭へもどれるはずであった。しかし、入院3日めから服用せられた整腸剤キノホルムによって、わずかな間に下半身は麻痺し、両手さえもしびれて、寝たきりの状態になり、日夜激しい痛みとしびれに呻吟する身となった。一生立てないと言告されても、不思議に平静を失わなかった私も、その後みるみる視力が低下し、40年7月には完全失明となり、その時には地獄の底へ突き落されたような絶望と悲しみに気も狂い、そんな毎日であった。

そんな絶望の中から、私は初めて多くの身体障害者、難病に苦しむ人たちの上に思いをはせるようになった。心の静まった時には、幼い日に読んだ、盲人をめぐるのキリスト様と弟子の言葉がふと思い出され、それが私を教会に近づけるきっかけとなった。今から思うと、聖書とは少し違った表現だったと思う。確か、「神に選ばれて試練を受けているのだ」と書いてあったように記憶している。

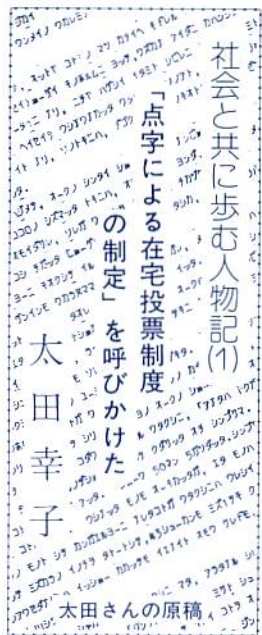
病名は「スモン」。やがて、原因もわからぬまま伝染説が流れ、面会の人は絶え、仕事と看病に疲れてた夫は病に倒れ、私から去っていった。厳しい試練であった。

点字は独習で覚えた。点字図書館から借りた本の多くは、ハンセン氏病の患者の歌集や随筆だった。ハワイ、モロタイ

島で難病者を献身的に看病し、自らも難におかされて亡くなられたタミアン神父様のこともそれらの本で知った。

病床で私は、多くの友人を得ることができた。40年9月には、「スモン」の原因が整腸剤キノホルムであることがわかり、やがてスモンの会が組織され、裁判闘争へと進む中で、子羊会を知り、教会を知った。また世の多くの障害者を思う時、裁判によって賠償金を受けることにこだわりを覚える私に、「あなたは被害を二度とおこさないためにという義によって聞いているのでしょうか」と言われて下さった。

17年ぶりに社会へ出た私に、また新たな試練の嵐が吹き続ける。昨年6月28日、「人権を考えるミサと集会」に私も参加させていただき、寝たきりの盲人には投票権が与えられていないことをお話ししたが、各教会のご協力によって多数の署名をいただくことができた。盲人協会は、署名用紙の国会提出を前に種々検討し、皆様のご努力を無駄にしないよう頑張りますとのこと、本当にありがとうございます。



選挙は、国民に等しく与えられた基本的な権利である。重度の身体障害者には、在宅投票すなわち郵便投票の道が開けている。それが、国民は納得していたが、実際は、寝たきりの全盲の人たちには、投票の道は閉ざされていたのであった。多くの国民は、そのことに気がつかなかった。今、一人の寝たきりの盲人の、選挙を通じて社会に参加したいという、最低の要求によって初めてこの不合理な差別を知った。私がこのことを訴えたとき、手の不自由な人たちから、「タイプライターでの投票を認めてほしい」との発言があった。そのことも私の脳から離れないでいる。そうして、その上、選挙どころではない人も沢山いることも私は知っている。心の目で見た社会。神の御国を築くために私の小さな小さな努力を続けたいと思う。



時報が対話
の手段なら
書く
者も読む者
は「互に」
も、投稿者
も編集者も
心を開け

◆ふるさととは遠くにありて思うもの。よしやうらぶれて異土の乞食となるとも帰る所にあるまじや。天国がふるさとならば、そこに帰る事は大きな喜びのはず。しかし地上にしがみついているのか死が大変な事だと思われるのです。(MT)

◆カナタイプで綴られた太田幸子さんの記事。一字一字から血が噴きでて叫んでいる。原稿を受取る今の瞬間までの忙しい、しんどい、どうしようという感じが吹っ切れてしまった。きょうだいは神の恵み。きょうだいは神のことば。感謝。(Y)

◆き。氏事中島喜代一氏は、先号。開心の(黒子)の希望どおり次号から再び編集部で活躍されます。3月の拡大編集会議で皆さんと元気なお顔を合わせると思っています。御期待下さい。(黒子)

◆今年は何故か、峠とったなあ、という気持がある。もう二十歳代も残りわずかになったからか。時報始めた頃は独り者だったボクも、今は二児の父親だ。時報もいるなとあつたけど、復刊時のメンバーに戻ってしまつて、初心にかえって頑張ろうといったところか。(亜)

へお知らせ。編集部電話番号が七六一一九〇九五に変わりました。ご注意ください。

本紙を福音宣教に役立たせるため、ご近所、お友だちにもお見せ下さい。